

# 組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：埋蔵文化財調査研究センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>①「博物館実習」の一部を分担し、調査研究とその成果を教育活動に活かす。教員1名の担当者を中心に全員が協力し、実習内容に精通した非常勤職員の補佐も含め、きめ細やかな教育体制を保持する。また、学生に対して自発的な思考や発言を促すなかで、授業における習熟度をあげる。</p> <p>②「構内遺跡の発掘調査」や「その報告書作成」などを業務とする本センターの職場環境を学生に提供し、就業前の学生に対して、社会性を高めるための教育的支援やそれに伴う経済的支援を、幅広い分野の学生に対して提供するため、経費獲得などの環境整備を図る。</p> <p>③学習・研究の場として、授業や学生の受け入れに努める。</p> <p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>①「博物館実習」の終了時に、学生による発表形式(プレゼンテーション)の時間を設定する。</p> <p>②「オンザジョブトレーニング」の戦略的教育経費を獲得する。</p> <p>③オンザジョブトレーニングで雇用する学生は、考古学専攻生に限らず複数の学部を対象とし、5名以上とする。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>①博物館実習は、津島岡大遺跡第35次発掘調査現場と本センター内で実施した。期間は8月5日～20日である。受講生39名を4班に分けて、各2日間にわたる実習形式をとった。1班9名程度の少人数構成で、発掘現場での体験やグループ単位の発表などを組み込んだ授業構成は、協業作業を通して授業の習熟度を高める上で極めて効果的であった。特に、発掘現場での実習は、単に考古資料の取り扱いに関する知識のみならず、自らの生活の場(岡大・地元)と歴史とを強く結びつける効果を生み出し、学芸員としての本質的素養形成に寄与することとなった。</p> <p>②③オンザジョブトレーニングの経費の獲得はかなわなかったが、運営費の中で、大学院生1名(自然科学研究科)を非常勤として短期間雇用し、社会性を高める教育支援を実施した。大学の講義や実習では体験できない社会性を身につけるなど、学生のスキルアップに資することができた。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>・センター教員の個別研究を進め、全教員が科研費などの申請を行い、外部資金の獲得に努める。</p> <p>・鹿田遺跡・津島岡大遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、関連科学分野や周辺の自治体との連携を強化し、幅広い研究分野に資するような研究の推進に努める。</p> <p>・研究成果を紀要あるいは展示会などで発表する。</p> <p>・テニユア・トラック制による教員確保を目指す。</p> <p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>・科研費の申請率を100%とする。</p> <p>・研究面での連携にあたって、自然科学的研究分野の研究者に構内遺跡出土の資料を提供する。</p> <p>・岡山県教育委員会など地元自治体と共同の研究の場を設ける。</p> <p>・テニユア・トラック制による教員1名を採用する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>①センター教員5名全員が科研費への応募を行い100%を達成した。</p> <p>②本学自然科学研究科の教員に、鹿田遺跡で採取したボーリングコアの資料を提供し、岡山平野の形成過程についての共同研究に寄与することができた。また、農学系の研究者へ提供した鹿田遺跡出土メロン仲間種子の資料は、そのDNA分析が国際学会で発表されるなど、関連分野との連携による研究あるいはその情報発信の点で充実したものとなった。</p> <p>③特別展「鹿田発掘30年弥生時代を語る」の開催を通じて、岡山県教育委員会の研究者と共同の研究の場を作ることができた。</p> <p>④テニユア・トラック制による教員1名を採用することができた。</p> <p>⑤鹿田遺跡出土の奈良時代の絵馬あるいは弥生時代における岡山平野の古地形復元や鹿田遺跡の井戸についての研究成果を、紀要・センター報あるいは展示会で発表した。</p> <p>⑥研究大学強化促進事業の一環として文化財の三次元計測を用いた研究を実施することが認められ、三次元計測機を購入することとなった。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p><b>③-1 目標</b></p> <p>・近隣の自治体などが開催する講座などの活動への協力あるいは地域の文化財保護についての指導的な助言を通じて、社会との連携や文化財行政などに寄与する。</p> <p>・地元中学校からの「中学生の職場体験」に関する要望を受け入れるなど、社会との連携、協力に寄与する。</p> <p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>・自治体からの講座講師の依頼に応ずる。</p> <p>・岡山県の委員会や審議会などを通じて、年間に数回は、岡山県下における文化財行政などに関する問題に助言を行う。</p> <p>・岡山市内の中学校から「中学生の職場体験」について要望があった場合は、最低、年間1校・生徒3人程度は受け入れる。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>①岡山県立博物館からの講座講師の依頼に応じた。</p> <p>②文化財保護の問題について、県教育委員会との連絡会議や主要遺跡の保護対策委員会、あるいは開発に伴う審議会などを通じて、岡山県に対して指導的助言を行った。</p> <p>③中学生の職場体験は、合計3校から計8名を受け入れ、11月に各2～3日間にわたって実施した。例年以上の受入数である。</p> <p>④新たな取り組みとして、鹿田小学校で行った出前授業があげられる。10月4日に、教員2名が出土品を持参して2回の授業を行った。非常に好評で、継続の希望も受けている。目標以上に学校活動への積極的協力を果たすことができた。</p> <p>⑤鹿田遺跡出土の絵馬をモチーフとした絵馬グッズの製作企画や特別展企画の一貫で実施した鹿田遺跡のイメージキャラクター募集は、明るい話題として新聞等でも大きく報じられ好評を博した。岡大の構内遺跡がもたらした社会貢献の新たな形として評価されよう。</p>
<p><b>④センター業務</b></p> <p><b>④-1 目標</b></p> <p>・構内遺跡の発掘調査を実施する。調査にあたっては、調査の効率化と質の向上に努める。</p> <p>・発掘調査の成果を学内外に積極的に公開する。</p> <p>・構内遺跡の発掘調査報告書を刊行する。</p> <p>・岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2012を刊行する。</p> <p>・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』50号・51号を刊行する。</p> <p>・鹿田地区・津島地区における発掘調査資料の整理作業を進める。</p> <p>・木器の保存処理を進める。</p> <p>・鹿田発掘30周年記念の特別展示会を学内外の会場で開催し、地元自治体と連携しつつ、調査成果を積極的に公開する。</p> <p>・各調査データの整理・活用について、効果的な記録方法の確立を目指す。</p> <p><b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>・必要に応じて発掘調査を実施し、現地説明会を1回は開催する。</p> <p>・発掘調査報告書を最低1冊、紀要を1冊、そしてセンター報を2回刊行する。</p> <p>・鹿田地区で6件、津島地区で1件の発掘調査資料を整理する。</p> <p>・木器保存処理を1期分行う。</p> <p>・展示会は岡山シティーミュージアムなどで2月を中心に開催する。展示に際しては、岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山大学考古学研究室と連携する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>①発掘調査は津島地区1件(第35次調査(約80㎡))と、鹿田地区2件(第24次・25次調査(約1800㎡・2500㎡))、合計3件の調査を実施した。記録に際しては、デジタル機器を積極的に使用し、作業の迅速化を図った。</p> <p>②発掘調査の成果については、記者発表などを通じて積極的な公開に努めた。</p> <p>③鹿田遺跡第14次調査の発掘調査報告書を刊行した。</p> <p>④⑤『紀要2012』、『センター報』50号・51号を予定通りに刊行した。</p> <p>⑥発掘調査の資料整理について、鹿田遺跡6件、津島岡大遺跡1件を実施した。</p> <p>⑦木器保存処理は、予定通りに第11期の作業を行った。</p> <p>⑧特別展「鹿田発掘30年弥生時代を語る」を、岡山シティーミュージアムを会場に、岡山県古代吉備文化財センター/岡山大学考古学研究室とともに開催した。展示にあたっては岡山市教育委員会などの自治体とも積極的な連携を図った。2014年2月8～23日の会期中で講演会・コウコガク・カフェ・座談会もあわせて実施し、最新の調査研究成果をわかりやすく広く情報発信することができた。全体で2303名の見学者を得た。また、同企画の一貫として、10月21日～11月1日に、岡大病院外来診療棟1階でギャラリー展示を開催し、約2400名の見学者があった。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>本年度は、昨年度末で教員1名が転出したため、5名の体制を確保できたのは後半期になってであった。新たな教員採用にあたっては、テニユアトラック制を導入することができ、また、年度末で任期切れになる教員1名についても、その実績から任期制をはずすことで、運営体制の強化・安定を図ることができた。各項目の組織目標については、概ね十分に達成することができた。その中では、目標以上の成果が上がったものも多い。発掘調査での成果、小学校へのお出前授業などによる地元の教育現場へ積極的支援、特別展を通じての周辺自治体との連携や研究成果の発信力の強化、そして一般参加の様々な企画を通じた岡大構内遺跡の情報発信、こうした点に特に際立つ成果である。発掘調査では、鹿田24次調査で出土した奈良時代の絵馬が多く多くの注目を集めることとなり、速報的にその研究成果を広く公開することができた。特筆される特別展では、岡山シティーミュージアムの主会場に加えて本学鹿田地区でも展示を行い、全体で県内外から5000名近い見学者を得ることができた。大学病院内という特殊な場所での展示あるいは機関の枠を超えた企画、一般参加の企画など、単なるセンター業務の成果という枠を超える。社会貢献あるいは研究面にも寄与することができた点でも有意義な取り組みであったといえよう。課題としては、近年の発掘調査頻度の高さから、報告書刊行の遅延を余儀なくされている点があげられる。来年度からは人的支援の強化を図り、状況を改善する積極的努力が必要である。</p>	